

知覚動考

「誰一人取り残さない 子供が育つ学校づくり」

寒河江市立南部小学校
校長室だより
校長 白田 敏幸

子供の「好き」を育み、「得意」を伸ばす

昨年9月に、次の学習指導要領の基となる考え方をまとめた「論点整理」が示されました。その中で、私は、「好きを育み、得意を伸ばす」という言葉に深く共感しています。



子供が夢中で遊び、活動に取り組む姿は学びの出発点（本校の1年生が年度当初実施している「スタートカリキュラム」は、この理念です。）であり、得意を伸ばすことは挑戦と自信の積み重ねです。こうした経験は、子供自身が進んで学ぶ主体的な学びへとつながり、一人一人に応じた個別最適な学びの基盤となります。

遊びや活動の中で感じたことや考えたことを言葉にして伝え合うことは、学びを深める重要な営みです。友だちとの関わりを通して視点が広がり、対話を重ねることで「対話的で深い学び」や協力して学ぶ「協働的な学び」が育まれます。これらは互いに補い合い、子供の学びを豊かにします。

現在、どこの学校にも、支援や配慮を必要とする子供が多くいます。もしかしたら、支援を必要としない子供なんていないのかもしれませんが。

そんな中で、従来の一斉授業だけでは対応が難しくなっており、これからは好きなことを大切に、得意を伸ばす学びと、自分の考えを持ち友だちと合意する学びを一体的に進めることが求められます。

本校においても、課題設定や解決方法、関わり方、表現方法を子供自身が選び、自分のペースで進める学びへと変わりつつあります。

就学前から小・中学校まで一貫して「自分で選び、自分で決める」学びを大切にすることで、子供は考え行動する力を身に付けていきます。この考えを保護者や地域の皆様と共有し、日々の取組みをつなげていくことが、未来を創る力を育む道だと信じています。

今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

